

コレクションラボ 006 美の殿堂 鈴木コレクション

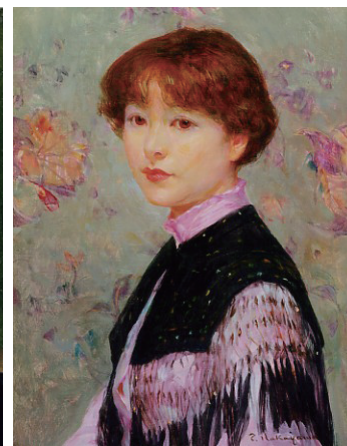
2023年12月23日(土)～2024年3月18日(月)



宮永岳彦《燦》1986



下村正二《津軽塗りと京壺》1992



中山忠彦《肩掛けの女》制作年不詳

「鈴木コレクション」の華やかな世界を紹介

収蔵作品を独自の切り口で紹介する展覧会シリーズ「コレクションラボ」では、八戸の実業家で美術コレクターであった鈴木継男・あじや夫妻によって、1999年から2012年にわたって寄贈された「鈴木コレクション」を展示します。

本展では、女性や花などをモチーフとした写実画を中心に、個人コレクションが「美の殿堂」と呼ばれる「美術館」の起源の一つであることに着想を得た展覧会として、鈴木コレクションの華やかな世界を紹介しています。

会期 | 2023年12月23日(土)～2024年3月18日(月) 10:00～19:00

会場 | 八戸市美術館 コレクションラボ

休館日 | 火曜日(2月20日は開館)

観覧料 | 無料

主催 | 八戸市美術館

担当学芸員 | 高橋麻衣

会場構成 | 佐藤慎也

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531

E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>

広報・本展覧会担当 | 高橋



展覧会について

「鈴木コレクション」は、八戸の実業家で美術コレクターであった鈴木継男と、その妻のあじやが、1999～2012年にわたって当館に寄贈したコレクションです。東郷青児など近代日本画壇を代表する画家や、棟方志功など郷土ゆかりの作家まで、その数は176点に及びます。

本展では、女性や花などをモチーフとした写実画を中心に、鈴木コレクションの華やかな世界を、個人コレクションが「美の殿堂=美術館」の起源の一つであることに着想を得た展覧会として紹介します。

美術館の起源をたどると、古代ギリシャの神殿や近世の教会などが挙げられますが、直接的な起源と言われるのは、15～18世紀におけるヨーロッパの王侯貴族による個人コレクションです。これらが市民に公開され、近代的な美術館の姿となったのが、美の殿堂として名高いルーヴル美術館です。

現代でも、多くの美術館にとって、個人コレクションは館を支える礎の一つであり、「鈴木コレクション」もまた、当館を訪れる多くの人の目を楽しませてくれます。「鈴木コレクション」が創り出す「美の殿堂」をお楽しみください。

1. 美の神殿

コレクションラボ1では、美術館を意味する「ミュージアム」の語源は、ギリシャ神話に登場する9人の芸術の女神ミューズを祀った神殿「ムセイオン」に由来しています。ここでは、ムセイオンの9人のミューズになぞらえて、9人の女性像を展示します。

2. 美の陳列室

美術館の直接的な起源と言われるのが、15～18世紀にかけて、ヨーロッパの王侯貴族が美品・珍品を集めた陳列室です。これらは、「ヴンダーカマー」(驚異の部屋)や「キャビネット」などと呼ばれ、持ち主の感性で集められた作品や資料が、部屋に所狭しと並べられていました。

コレクションラボ2では、当時の陳列室に着想を得て、「鈴木コレクション」のうち、1999年に初寄贈された作品を中心に40点を展示しています。



関連イベント

ほろよい鑑賞「ほろハチ」

展覧会の作品を、ほろよいのリラックスした気分で鑑賞するイベントを開催します。
今回は、美術館の起源の一つが、ヨーロッパの王侯貴族の個人コレクションであることから、八戸ワインを堪能したあとで作品をお楽しみいただきます。

日時| 1月26日(金) 19:00～20:00 (受付開始 18:45)

場所| 八戸市美術館コレクションラボ、ジャイアントルーム

参加料| 1,000円

定員| 10名

対象| 20歳以上

申込| 電話またはメール

トークイベント「美の殿堂ができるまで」

『ミュージアムの教科書—深化する博物館と美術館』の著者で、美術評論家の暮沢剛巳氏を講師にお招きし、近代的なミュージアムができるまでの歴史を学びます。

日時| 2月25日(日) 14:00～15:30

場所| 八戸市美術館ジャイアントルーム

講師| 暮沢剛巳(美術評論家、東京工科大学デザイン学部教授)

参加料| 無料

定員| 40名

申込| 電話またはメール

プロフィール| 暮沢剛巳(くれさわたけみ)

1966年、青森県生まれ。美術、建築、デザインなどを対象に評論活動を行う。東京工科大学デザイン学部教授。著書に『ミュージアムの教科書—深化する博物館と美術館』(青弓社)、『拡張するキュレーション—価値を生み出す技術』(集英社)、『オリンピックと万博—巨大イベントのデザイン史』(筑摩書房)など、共著に『視覚文化とデザイン—メディア、リソース、アーカイヴズ』(水声社)、『幻の万博—紀元二千六百年をめぐる博覧会のポリティクス』(青弓社)、『History of Japanese Art After 1945』(Leuven University Press)など。最新刊に『核のプロパガンダー「原子力」はどのように展示されてきたか』(平凡社)。



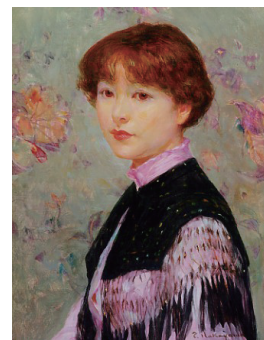
広報用画像



a



b



c

- a 宮永岳彦《燦》1986
- b 下村正二《津軽塗りと京壺》1992
- c 中山忠彦《肩掛けの女》制作年不詳

広報用画像をご希望の方は、【1.会社名/組織名、2.媒体名・媒体の種類(雑誌、テレビ、webなど)、3.ご担当者名、4.ご連絡先、5.掲載/放送予定日、6.画像到着希望日、7.ご希望の写真が掲載されているプレスリリースの発行日、8.ご希望の写真記号】をメール、またはFAXに明示の上、下記、お問い合わせ先までご連絡ください。

[画像の貸出条件]

- 画像は本企画・美術館の紹介の目的のみにお使いいただけます。
- 画像データは第三者へ譲渡せず、使用后すみやかに消去してください。
- 画像のトリミングについては事前にご相談ください。
- 作品画像の上に図や文字を重ねることはできません。
- 画像を掲載、放送する際には、指定のクレジット表記を必ず入れてください。
- 画像を掲載、放送する前に、ゲラ等掲載案をお送りください。担当者が確認します。
- 新聞紙、雑誌、書籍等の印刷物に画像を使用する際は、八戸市美術館に1部ご寄贈ください。

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>
広報・本展覧会担当 | 高橋